

思いやり深い愛（コンパッションエイト・ラブ）が形成される 夫婦の共通性について—高齢期夫婦2人世帯の語りを通して—¹

渡辺 詩津^{2,3} 石村 郁夫⁴

本研究では、本邦における独居世帯高齢者の増加を予防する具体策を提案するために、思いやり深い愛（Compassionate Love：以下 CL）を形成している高齢期夫婦2人世帯、8組16名に質問紙調査（『夫（妻）への思いやり深い愛尺度』『夫（妻）からの思いやり深い愛を感じる尺度』）及び面接調査（ライフストーリーインタビュー）を実施し、その夫婦の特徴や共通性を導き出すために修正版 M-GTA を用いて分析し、解釈を行った。その結果、22の概念が生成され、それらから7つのカテゴリーと、2つのコア・カテゴリーが生成された。1つ目のコア・カテゴリーの《手塩にかけて育て続ける関係性》は、夫婦の関係性についての特徴であり〈2人は1人に優る〉〈まごころ込めてぶつかり合う〉〈‘一心同体’の如く〉〈重荷を背負わせないように〉の4つのカテゴリーが含まれていた。2つ目のコア・カテゴリーの《‘今’だからこそ抱き合う尊い想い》は、‘今’抱いている想いについての特徴であり〈夕べがあり、朝があった〉〈我が結婚に一片の悔いなし〉〈愛はいつまでも絶えることを知らず〉の3つのカテゴリーが含まれていた。この2つのコア・カテゴリーは、2人で《手塩にかけて育て続ける関係性》を構築していく中で、《‘今’だからこそ抱き合う尊い想い》が芽生え、存在しているという関係性になっていた。以上のことから、高齢期に思いやり深い愛（CL）が形成され、夫婦で《‘今’だからこそ抱き合う尊い想い》を感じ合うためには、若い時から相手の為にも、セルフ・ケアするなど、研究結果で導き出された《手塩にかけて育て続ける関係性》を築き上げていくことが重要であることが示唆された。

キーワード：思いやり深い愛（Compassionate Love）、独居世帯高齢者増加予防、高齢期夫婦2人世帯、ライフストーリーインタビュー、修正版 M-GTA

問題と目的

国立社会保障・人口問題研究所（2014）は「日本の世帯数の将来推計」の最新版で、2035年には65歳以上の高齢世帯のうち独居世帯が全国で37.7%、東京都では44%を占めると公表している。また、内閣府（2014）による「平成25年度版高齢社会白書」では、誰にも看取られることなく亡くなった後に発見される死、いわゆる孤独死を身近な問題として感じている高齢者の割合が、夫婦2人世帯で14.6%に対し、独居世帯では、45.4%と3倍であることを発表している。本邦における三大死因である脳血管疾患や心疾患は発症後、数分単位の早期発見・即時処置により生存率が上がるとされているが、独居世帯高齢者の場合、発見が遅れ、命を失ってしまうリスクが高い。また、内閣府（2014）は、2070年には現役世代（15-64歳）1.3人で1人の高齢者（65歳以上）を支える社会が到来すると発表しており、現行の介護保険法、老人福祉法等によるフォーマルなサービスだけでは、高齢者の介護や支援が補いき

れなくなることが推定される。中谷（2002）によれば、高齢期における社会的・心理的安定のためには夫婦関係が重要であると指摘している。よって、インフォーマルなサポートとしての配偶者の役割が重要であると考えられる。高齢期に夫婦2人で暮らすことは孤独死への不安を軽減するだけではなく、助けてくれる人がいるという安堵感をもたらすと考えられる。

これまでの夫婦関係に関する心理学研究の中で Gottman（2011）による夫婦関係の安定性や離婚を予測する研究がある。Gottman（2011）によれば、離婚が予測される夫婦関係の4つの特徴として、①相手の人格に対して批判すること（批判）、②相手のことを軽蔑すること（軽蔑）、③防衛的な態度を取ること（防衛的反応）、④拒否の態度を取ること（無反応）を挙げており、良好な夫婦関係を保つ秘訣には独自に関係修復の努力がなされていることが挙げられている。また、Gottman & Silver（1999）は離婚を予防するカップル療法を開発しており、結婚

1 本論文は平成26年度東京成徳大学大学院心理学研究科に提出した修士論文を加筆・修正したものである。

2 体調不良の中、快く笑顔で語ってくださった研究対象者の皆様に、心より深く感謝申し上げます。

3 東京成徳大学大学院心理学研究科

4 東京成徳大学応用心理学部臨床心理学科

生活がうまくいくための7原則として、①相手のこと（経験、目標、心配事、希望、興味など）に関する地図をアップデートすること、②相手への好意や敬意を育てること、③お互いに向き合う努力をすること、④相手からの影響を受け入れること、⑤解決可能な問題から取り組むこと、⑥膠着状態を乗り越えること、⑦人生の目的、意味、価値を共有することを挙げている。一方で、本邦では、配偶者（妻）と良好な関係を築くことは夫の疎外感を軽減させ（伊藤・池田・川浦, 1999）、妻の精神的ストレスの低減にも直接作用しており（稲葉, 1999）、さらに、配偶者に対する愛情は抑うつ性の低さと結びついており（詫摩・八木下・菅原・小泉・菅原・北村, 1999）、配偶者と良好な愛情関係を築くことは精神的健康の改善にも繋がっていることが示されている。しかしながら、本邦における夫婦関係に関する研究は、特に夫婦間のコミュニケーションの内実には焦点を当てた実証的研究の蓄積は少ないと指摘されていることから（柏木・平山, 2003）、配偶者との良好な愛情関係に関する更なる研究が求められていると考えられる。その中で、高橋・波多野（1990）は高齢者の良好な夫婦関係の在り方について言及しており、「もらう愛情」だけでなく「与える愛情」や「分かち合う愛情」が重要であると指摘している。この思いやり、愛情を分かち合うことに関して、近年、提唱された概念として思いやり深い愛（Compassionate Love：以下CL）がある（Underwood, 2008）。

思いやり深い愛（CL）とは、“相手の幸せが中心にある愛”（love that “centers on the good of the other”）と定義されており（Underwood, 2008）、慈愛（loving kindness）や他者のための愛（love for others）から派生した概念である。この定義の特徴として、“根源的なレベルで他者を尊重していること”“他者に対して心が開かれており、他者を快く受け入れること”“他者のために自由な選択をしていること”“状況、他者、および自身に対するある程度の正確な認識が伴っている”“心からの反応であること”の5つの構成要素が挙げられている（Underwood, 2008）。また、従来の先行研究で概念化されている利他的な愛（Altruistic Love）や無制限の愛（Unlimited Love）の構成概念と密接な関連があり、一方で、上述した

5つの構成要素の観点から利他主義（Altruism）、同情（Compassion）、情熱的な愛（Romantic Love）とは別の構成概念であることが述べられている（Underwood, 2008）。この思いやり深い愛（CL）という構成概念は、元々世界保健機関（WHO）が生活の質を評価するツールを開発するための会議で、イスラム教徒や仏教徒などの信仰者や科学者などの世界各国のメンバーにより重要な概念として提唱された背景がある。Oman（2010）のレビュー研究によれば、2001年以後、思いやり深い愛（CL）に関する科学的な研究は31件の助成金によって実施されており、査読付き論文は、現代社会における思いやり深い愛（CL）の質的研究、ヘルスケアや養育などの観察研究や介入研究、愛着の安定性、親密な関係性、幼少期や青年期、成人期における発達に関する研究など55本に上ることが確認されている。

上述したように、良好な夫婦関係を築き、幸せな老後を送るためには、思いやり深い愛（CL）が重要な概念となってくると考えられる。では、高齢期に思いやり深い愛（CL）を形成している夫婦にはどのような共通性が見られるのであろうか？これが本研究における分析テーマになる。本研究の目的として、現在、すでに思いやり深い愛（CL）を形成している高齢期夫婦2人世帯に焦点を当て、語りを通して、夫婦の特徴や共通性を導き出し解釈していく。社会への貢献としては、思いやり深い愛（CL）の高い夫婦を増やすための1つの具体策として何らかの示唆が与えられると考えている。

方 法

調査対象者

思いやり深い愛（CL）を形成している高齢期夫婦2人世帯、男女8組16名、平均結婚年数は50.3±5.49年、平均年齢は75.5±6.60歳であった。

調査期間及び調査場所

平成26年7月下旬～9月中旬にかけて面接を行った。調査場所は対象者の居宅（一部、病院談話室）であり、平均調査時間は1時間13±15.45分であった。

Table 1 調査対象者プロフィール

	A夫妻		B夫妻		C夫妻		D夫妻		E夫妻		F夫妻		G夫妻		H夫妻	
	夫	妻	夫	妻	夫	妻	夫	妻	夫	妻	夫	妻	夫	妻	夫	妻
年齢	70代後半	70代後半	70代前半	70代前半	80代後半	80代前半	70代前半	70代後半	60代後半	60代後半	70代前半	60代後半	70代前半	70代前半	80代後半	80代後半
結婚歴	約50年		約50年		約55年		約45年		約45年		約50年		約45年		約65年	
主な疾患	内部疾患	内部疾患	内部疾患	整形疾患	内部疾患	内部疾患	内部疾患	内部疾患	内部疾患	整形疾患	内部疾患	内部疾患	事故後遺症	難病	内部疾患	内部疾患
職歴	会社員	嘱託職員	会社員	専業主婦	会社員	専業主婦	会社員	パート勤務	会社社長	専業主婦	会社重役	専門職	NPO法人	会社員	海外勤務会社員	専業主婦
子供有無	なし		あり		あり		あり		あり		あり		あり		あり	
介護経験	あり		あり		あり		なし		あり		あり		あり		なし	

データの収集及び手続き

1. 筆者が介護支援専門員として関わりを持っている高齢夫婦，又は，介護従事者からの紹介による縁故法にて，お互いに病気がありながらも助け合って生活し，思いやり深い愛（CL）を形成していると思われる，高齢期夫婦2人世帯，男女9組18名（夜間に娘が帰宅する実質2人世帯1組含む）を抽出した。しかし，1組は下記に示す質問紙が低得点であったため除き，8組16名を調査対象者とした。具体的なプロフィールは，Table 1に示す。

2. 調査対象者の思いやり深い愛（CL）の程度を数量的に検証するため質問紙調査を実施した。夫婦のコミュニケーションの在り方を行動観察するために，質問紙への記載は夫婦一緒に実施した。また，高齢期であり，耳が聞こえにくい場合は口頭にて数回尋ね，手が不自由な場合は筆者により代筆を行った。質問紙は以下のaとbから構成されている。a. 夫（妻）への思いやり深い愛尺度：先行研究で用いられている Compassionate Love Scale for Intimate Partner (Sprecher, & Fehr, 2005) を筆者および心理学の博士号を持つ大学教員が邦訳した。また，尺度の英文訳に関しては表面的妥当性および内容的妥当性の観点から筆者ならびに心理学を専攻する大学院生4名により協議し検討した。その上で，5年の海外在住歴のある心理学を専攻する大学院生によりバックトランスレーションをし，原著者の Sprecher と Fehr に確認し，許可を求めた。本尺度は，全21項目から構成され，7件法（1. まったく当てはまらない—7. 非常に当てはまる）によって回答を求めた。b. 夫（妻）からの思いやり深い愛を感じる尺度：問題と目的で述べたように高橋・波多野（1990）によれば高齢者の良好な夫婦関係には「もらう愛情」と「与える愛情」の両方が重要視されている。そのため，本研究では独自にaの夫（妻）への思いやり深い愛尺度の項目中にある表現「私」の部分で「夫（妻）」へ置き換えて，さらに受身形にし，『夫（妻）からの思いやり深い愛を感じる尺度』と改変して使用した。本尺度は，全21項目から構成され，7件法（1. まったく当てはまらない—7. 非常に当てはまる）によって回答を求めた。また，2種類の尺度項目及び平均値については，Appendix 1, 2に示す通りである。

3. 質問紙への回答後，夫婦一緒に出逢いから現在まで，思いやり深い愛（CL）に関するライフストーリーインタビューを行った。植田・山本（2009）によれば，ライフストーリーインタビューとは，半構造化面接よりも語り手の主体性を重んじ，より自由な語りを促すインタビュー技法である。語り手の主体的な意味付けを肯定し，それをより多くの言葉に表現してもらうため，4つインタビューガイドをもとに，自然な会話の流れを重視し自由に語っていただいた。インタビューガイドは Table 2に示す。

Table 2 インタビューガイド

-
0. 「お2人の馴初めを教えてください」（導入インタビュー）
 1. 「一番、(夫/妻) から、思いやり深い愛を感じたエピソードを教えてください」
 2. 「一番、(夫/妻) へ、思いやり深い愛を与えたと感じるエピソードを教えてください」
 3. 「お2人で、一番、お互いに思いやり深い愛を感じ合えたと思われるエピソードを教えてください」
 4. 「今、5つのエピソードをお聞きして、お互いに思いやり深い愛を感じ合えるご夫婦になられたのは、どうしてなのか教えてください」
-

倫理的配慮

倫理的配慮として，本研究の目的，個人情報保護，また，本研究への協力は自由意思に基づくものであり，参加の拒否による不利益は一切生じないことを説明し，研究代表者の連絡先を書面にて明示した。承諾後，面接を実施しICレコーダーでの録音を行った。逐語記録が保存されたUSBメモリは施錠可能な引き出しに保管し，調査対象者の個人情報の漏洩がないように配慮した。なお，本研究は，東京成徳大学大学院研究倫理委員会の承認のもとに実施した。

分析概要

1. 分析方法

質問紙回答中の夫婦の会話，ライフストーリーインタビューともに面接中の逐語記録はすべてデータとし，修正版 M-GTA（木下2003）の手法に則って分析を行った。木下（2003）は修正版 M-GTA とは，データの解釈から説得力のある概念の生成を行い，そうした概念の関連性を高め，まとまりのある理論を創る方法であると述べている。

2. 分析手順

修正版 M-GTA の解釈の特徴，『多重的同時進行性』をもとに，分析を進めて行った。はじめは最も情報量が多く，結婚年数が長く，『夫（妻）への思いやり深い愛尺度』が最高点であった H さん夫妻を分析焦点者として位置付けた。分析作業は段階分けせずに，分析テーマと H さん夫妻のデータ（面接時の逐語記録）を照し合せ，分析ワークシートを作成しながら概念生成を行った。類似例や対極例を観点に入れデータを見ていくと同時にその概念と関係するであろう未生成の他の概念も検討した。他の7組とも比較分析を行い，具体例が豊富に出てこなければこの概念は有効ではないと判断した。次に概念間の関係を検討し，カテゴリー，コア・カテゴリーを生成した。カテゴリー相互の関係から分析結果をまとめ，結果図とストーリーラインを作成した。本研究では対象者の数が少人数であ

り分析中に比較的安定した概念構成に至ったため、理論的飽和に達したと判断した。

結果と考察

結果図とストーリーライン

修正版 M-GTA を用いた分析の結果、最終的に 22 の概念が生成され、それらから 7 つのカテゴリーと、2 つのコア・カテゴリーが生成された。結果図は Figure 1 に示す。以下では、概念は先頭にアルファベットを付けて示し、カテゴリーは〈〉、コア・カテゴリーは《》、また、「」は対象者の語り、() は筆者による補足を括弧で記している。

ストーリーラインとして、思いやり深い愛 (CL) を形成している夫婦は自分たちの夫婦の関係性〈手塩にかけて育て続ける関係性〉と、現在、相手と自分自身に対して抱いている想い《‘今’だからこそ抱き合う尊い想い》の 2 つについて語ることが多くコア・カテゴリーとしてまとめた。

1 つ目のコア・カテゴリー〈手塩にかけて育て続ける関係性〉は、夫婦の関係性についての特徴であり〈2人は1人に優る〉〈まごころ込めてぶつかり合う〉〈‘一心同体’の如く〉〈重荷を背負わせないように〉の、4 つのカテゴリーが含まれていた。結婚初期の段階から、〈2人は1人に優る〉〈まごころ込めてぶつかり合う〉関係性があり、時間を重ねて〈‘一心同体’の如く〉になり、現在は高齢になり〈重荷を背負わせないように〉と、互いにいたわり合う関係性を形成していた。

2 つ目のコア・カテゴリー《‘今’だからこそ抱き合う尊い想い》は、‘今’抱いている想いについての特徴であり〈夕べがあり、朝があった〉〈我が結婚に一片の悔いなし〉〈愛はいつまでも絶えることを知らず〉の 3 つのカテゴリーが含まれていた。今、〈夕べがあり、朝があった〉と過去を振り返って感じる想い、〈我が結婚に一片の悔いなし〉と結婚生活について感じる想い、〈愛はいつまでも絶えることを知らず〉と現在から未来への想いであった。

この 2 つのコア・カテゴリーは、2 人で〈手塩にかけて育て続ける関係性〉を構築していく中で、《‘今’だからこそ抱き合う尊い想い》が芽生え、存在しているという関係性になっていた。

カテゴリーごとの概念の説明

次に、7 つのカテゴリーと 22 の概念について説明をする。

カテゴリー 1 〈2人は1人に優る〉 このカテゴリーは、1人より2人でいるからこそ暮らしが豊かで楽しくなり、悩みも減り、不自由なく暮らしていくことが出来る、この関係性こそが自分達夫婦の特徴と捉えている。比較的結婚早期の段階から形成し現在も継続している。概念が3つ含まれており1つずつ説明をする。[a.

一緒にするから小さくて、くだらないことでも笑い合ってる] この概念は、毎日の TV 鑑賞や旅行など、一緒にするからこそ、小さなことでも楽しく感じて、くだらないことでも笑い合っているのが2人の特徴と捉えていることであり、9例 (8組中7組) が語られた。具体例として、A 夫妻は、夫「(アイパッドで) もう暇があれば、すぐマージャンやってる、したらこの人が、すぐ頭きたとかなんとかって、すぐ言うの」妻「私が上がろうと思ってたのに、なんでそんな手で上がるの、安い手で上がるんじゃないって怒って [笑]」夫「口に出して、ブーブー言ってるの」妻「まあね遊ぶ道具があつていいわね、テレビはあるし」、G 夫妻は、妻「金婚式まで、あと5年、それなのに M ホテル行って金婚式の日」夫「いいの」妻「ちゃんとお菓子こやって写真も撮ってくれたのが、あの写真 [笑] まったく厚かましい、まったく恥ずかしいですよ」と語る。また、質問紙記載時の行動観察では、B 夫妻のように、夫「私に親切で良くありたいと思ってくれますか?」妻「思ってますわよ [笑] 丸印で書いてくれないかしら? 花丸でもいいし [笑]」など楽しそうに一緒に笑いながら行っていたため、夫婦の特徴と考えることが出来る。[b. 性役割に拘らず、互いに出来るほうがする] この概念は、病気や家庭の事情、また高齢になり身体機能から日常的に出来ないことが増えてきた際には、性役割に拘らず出来るほうがするのが夫婦と捉えていることであり、7例 (8組中4組) が語られた。具体例として、B 夫妻は、夫「わたしの場合は (妻が) 入院したときに、この年で女物のパンツ洗いましたよ」妻「うふふ、洗わせちゃった [笑]」、G 夫妻は、妻「男の子3人でしたからね、父親 (夫) が、ほとんど育児しているようなもんで、男の子の相手役ね、私は表で働いている、そういう感じでしたね、うまく行っただじゃないでしょうかね」と語る。また、A、C 夫妻のように面接中は語られなかったが、実際に妻が現在病気で仕事一筋だった夫が家事を行っているため夫婦の特徴と考えることが出来る。[c. 互いに困らないようフォローやアドバイスをする] この概念は、社会や家庭での出来事や、日々の小さな会話まで、すぐにフォローやアドバイスする関係性が構築されているため、お互いに困らなくても済むと考えていることであり、5例 (8組中4組) が語られた。具体例として、A 夫妻は、妻「でも、ほら TV でちょっと私が見落としたり、とんちんかんにわからなくなっちゃったことを言ってみたりするでしょ、そうするとすぐフォローしてくれるー中省略ーそれからおかしくなっていくことが、だからない訳よ、あ、そうそう、そうだねっていう風になるから」、C 夫妻は、妻「やっぱりちょっと困ったりなんかして話すると、アドバイスくれるしっていう、うん、そんな感じですね、あまりトラブルも起きないで来ちゃったから」と語る。また、面接時の行動観察

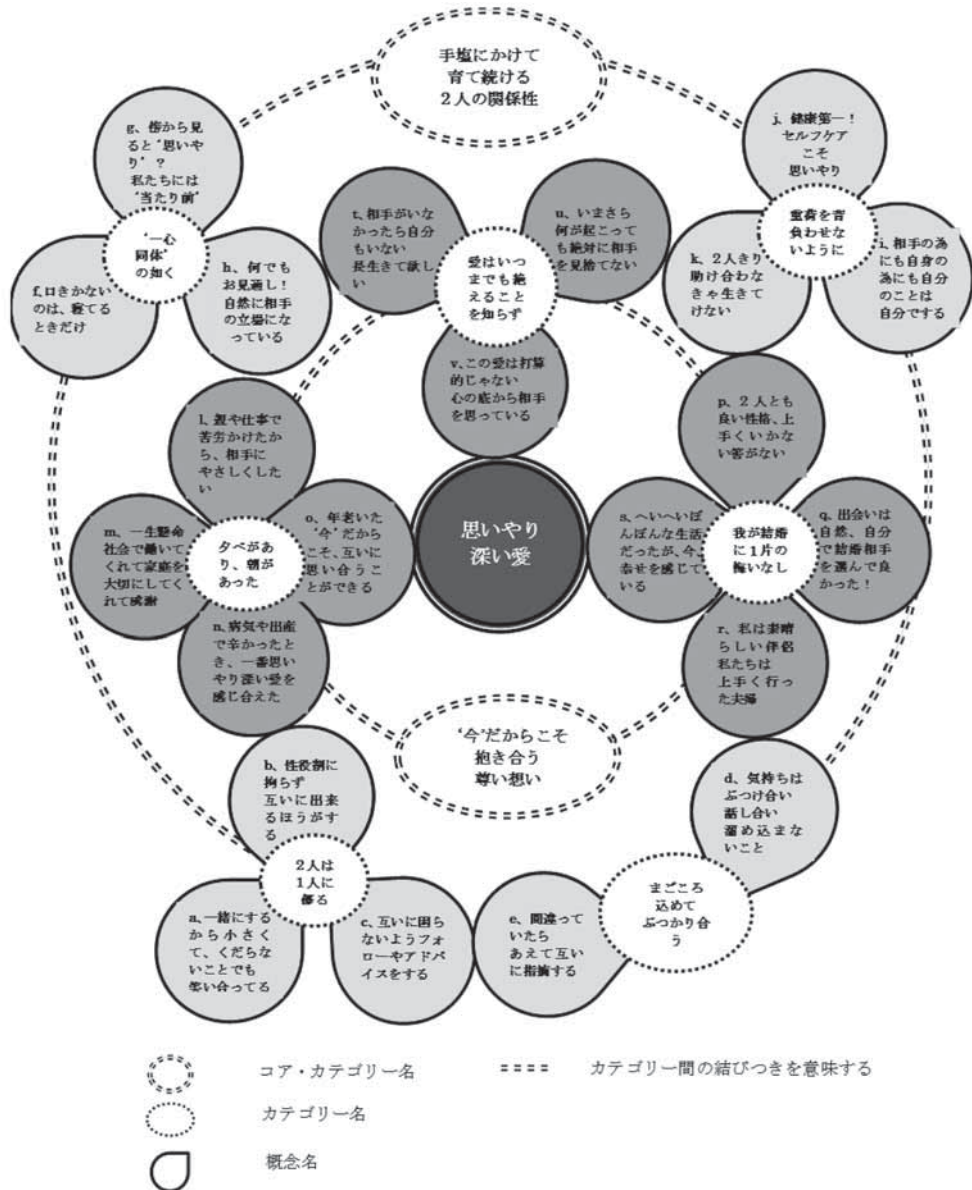


Figure 1 概念とカテゴリーの関連図

では、どの夫婦もお互いにフォローしている場面が多く見られたため、夫婦の特徴と考えることが出来る。カテゴリー2〈まごころ込めてぶつかり合う〉このカテゴリーは、2人の関係性がより良くなるため、又は、相手が社会で恥をかかないためにも、間違いは指摘し、しっかりと向き合い、ぶつかり合うことが必要であり、自分達の夫婦が行っている特徴と捉えている。比較的結婚早期の段階から形成し現在も継続している。概念が2つ含まれており1つずつ説明をする。[d. 気持ちはぶつけ合い、話し合い、溜め込まないこと]この概念は、違う人間なのだから意見の違いは当然。自分の考えは溜め込まずに、その場でぶつけ合うこと。

折り合いを付けたり、解決することで後まで引き摺らないことが一緒に暮らして行くには大切と考えていることであり、6例（8組中5組）が語られた。具体例として、F 夫妻は、妻「言いたいことは言い合って、あまり心の中に物を溜めないようにしてるのが思いやりだと思う」夫「やっぱりあー、なるべく腹に思ったことを残さないで、それで我慢するときはするけれども、でもやっぱりどっかで、お互いに意見をぶつけ合う、言いたいことを、やっぱり思いっきり言う、喧嘩もする、言い合いもする」、B 夫妻は、夫「ま、色々悩んだりね、色々考えたりしても、無口だと駄目だと思えますよ。自分の意思だとか、自分の考え方だとか、

何を求めているかとかって、一応ぶつけて、それから言葉が返ってきて、それで摺り合わせなくちゃいけない、だから片っぱが無口だったら、こーんなつまらないことないと思いますよ、男の無口っての大切なんですけど、無口じゃ駄目なんですよ、必要なことはしゃべりなくちゃ、と思います」妻「まあね、何考えてるかわかんないもんね、言わないとね」夫「それでそれを認めてもらえば嬉しいし、認められなかったら、ああ、じゃあどこ直せばいいかなって考えればいいことだよ」と語る。しかし、対極例が1例ありD夫妻は、妻「あんまり、こうこつちから、わあわあ言わないことだね」と語られた。[e. 間違っていたら、あえて互いに指摘する] この概念は、相手が社会で恥をかかないため、叱咤激励など、相手のためを思って間違いを指摘するのが、自分自身の役目と捉えていることであり、7例(8組中6組)が語られた。具体例として、H夫妻は、妻「間違ったことをした後は叱られるけど、でも、もうそれ以上はね、やっぱり「ぼけたのか」なんて言うけど、それは悪意じゃなくて叱咤ね、激励している訳ですからね」夫「ぼけちゃ困るから」妻「しつかりして、ママ、パパなんて言いますよ、結構キツイこと」、B夫妻は、妻「(間違っていると思ったら)言うよね、いつもね、家だといけど人様に対してとかあるからね」と語る。また、質問紙記載時の行動観察では、E夫妻のように、妻「何にした？」夫「いやいや駄目だよ」など実際に指摘する場面も多く見られたため、夫婦の特徴と考えることが出来る。

カテゴリー3〈‘一心同体’の如く〉 このカテゴリーは、2人の関係性は自然体で無意識、一心同体のものであるのが特徴と捉えている。結婚生活の時間経過と共に、より一層深まっている関係性である。概念が3つ含まれており1つずつ説明をする。[f. 口きかないのは、寝てるときだけ] この概念は、おしゃべりから相談まで、よく話をすることが夫婦の特徴であると捉えていることであり、4例(8組中4組)が語られた。具体例として、A夫妻は、夫「まあね、変な話だけどね、たぶん他のよその夫婦と比べてね、会話が多いんじゃないかと思う、で、やっぱり夫婦仲良くする秘訣ってね、隠し事があるかないかは別としても、ともかくね、会話、なるべくおしゃべりをする—中省略—俺たちはディナーは2時間って言ってね、要するに台所には2時間いるのよ」妻「こう、相対的にしゃべる時間が多い」夫「ともかくね、別に何って、とりとめのないことかもしれないけどもしゃべってんもんなあ〜」、B夫妻は、妻「2人しかいないのに口きかなくなったらどうしようもないね」夫「口きかないのは寝てるときだけ」と語る。また、面接時の行動観察では、ほとんどの夫婦がよく話合っておりH夫妻は面接時間約1時間半の中、会話が途切れることなく話していた。よって夫婦の特徴と考えることが出来る。[g. 傍から見ると‘思

いやり’？私たちには‘当たり前’] この概念は、周囲からは、思いやり深い夫婦関係と思える行為も、本人にとっては‘当たり前’と捉えていることであり、5例(8組中4組)が語られた。具体例として、A夫妻は、夫「俺にしてみると、すげえお世話になった(母親の最期を看取ってくれて)この人してみると一緒に生活してるんだから、そんなこと当たりの仕業だよ」妻「そうなのよ—中省略—私なんの抵抗もなくそれやってたのよ、だから亡くなって体拭くことも口の中を何かしてあげることも全然感じなかったわね」、F夫妻は、夫「お母さん(妻)、もしそういう風に(寝たきり)なったらそれはやっぱりちゃんと動ければ、やるのが当たり前だと思ってるし、全然、そんなこと苦になるとか考えてもいないし、ちゃ〜んと、お父さん(夫)やるから」妻「そういう思いやりですって[笑]」と語る。また、面接時の行動観察では、D、E夫妻共に、歩行不安定な妻のため、夫は瞬時に腕を組む場面も見られたため、夫婦の特徴と考えることが出来る。[h. 何でもお見通し！自然に相手の立場になっている] この概念は、長期間一緒に過ごしたため、体験的に相手の欲求、反応の特徴、考え等を理解している。よって、自然に相手の立場になっている関係性であると捉えていることであり、5例(8組中4組)が語られた。具体例として、H夫妻は、妻「そうね、わかるわね、何でも知ってるわね、何をすれば喜ぶとか」夫「うん、まあしょうがないな、年だから—中省略—妻「批判なんて若いときの話でしょ、今は批判なんて、もうすっかり知っているから何でも、もう、こういう所は言わないほうがいいのか、こういう所は触らないほうがいいなんていうのは、知っているから嫌なものは出ていない、うっかり言ったら、ごめんささいって逃げちゃうでしょ、2人ともね、ごめんごめん言うしね」、B夫妻は、夫「まあ、話しなくても」妻「まあ、通じちゃうって言うか」夫「通じますよね」妻「お見通しとかってよく言う」夫「例えばTV番組見て、ああ、あいつ、このチャンネル見たいんじゃないかって分かる訳、そしたら自分は」妻「寝ちゃうとか[笑]」夫「相手の気持ちって言うの考えることって、そんな大袈裟じゃない」妻「TVごときですから[妻]」夫「だから、相手の立場で考えてるのかな」と語る。また、面接時、E夫妻のように、夫「本人ね(妻の骨折時)子ども産む以外、入院初めてでショックだった訳だ、それが今度うつになっちゃって」など、相手のことを、あたかも自分のことのように語る場面も見られたため、夫婦の特徴と考えることが出来る。

カテゴリー3〈重荷を背負わせないように〉 このカテゴリーは、相手への負担が大きくなるように、気遣い合うことが重要であり、個人で自助努力しているのが、夫婦の特徴であると捉えている。高齢期を向え、体が動かなくなってきたからこそ、築き始めた関係

性である。概念が3つ含まれており1つずつ説明をする。

[i. 相手の為にも自分の為にも自分のことは自分でする] この概念は、相手に甘えて、自分のできることでまで行ってもらおうと自分の能力が低下してしまう。また、なるべく迷惑を掛けたくないことが、相手に対する思いやりと捉えていることであり、5例（8組中4組）が語られた。具体例として、H夫妻は、妻「今のところはね、お互いになんていうの迷惑かけないようにしようと、2人とも努力してるでしょ」夫「これからどうなるかわかんないな」、B夫妻は、夫「お互いのできることは、甘えてこっちがやらされるとか、そういうのはダメだよ。だから、リハビリにもなんにもなんないから。だから出来る範囲はやってもらうとか、それがちょっと無理かなと思ったら、こっちがやる」と語る。

[j. 健康第一！セルフ・ケアこそ思いやり] この概念は、自分自身の健康を維持することが相手へ負担をかけないことになる、また、気持ちだけでは相手を助けることができない、よって、心も体もセルフ・ケアすることが相手に対する思いやりと考えていることであり、5例（8組中4組）が語られた。具体例として、G夫妻は、妻「だからもう、疲れたら、これ以上駄目だと思ったらサッサと寝ちゃうし、自分の体調はね、自分で守るしかないんだから、それもちろんと分かってくれてますからね、やっぱり互いに分かり合える間柄になったんだと思います」、H夫妻は、夫「まあ、常に健康第一ですよ、何はともあれね、健康じゃないとね」妻「だれもやってくれない、自分しかいない、何だって自分よ、自分がしっかりやらなきゃ、相手にだっていいものを与えられないでしょ、ね、だから、2人とも割と自分自身を、あれしようと思って努力している訳、ねえ」と語る。また、現在、A、B、D夫妻の妻は、下肢筋力向上のためリハビリ施設に通っており、夫婦の特徴と考えることが出来る。

[k. 2人きり助け合わなきゃ生きてけない] この概念は、高齢2人暮らしのため、お互いに助け合っていかなければ生きていけないと捉えていることであり、6例（8組中5組）が語られた。具体例として、F夫妻は、夫「2人で力を合わせていくより、だんだん年取ってくると、そういう風にしてかないと、やっぱりあのう、普通の特別楽しい生活したいとは思わないけど、普通の生活はできないと思う」、C夫妻は、夫「お互いにな、そうじゃないと生きてけないよ」H夫妻は、夫「悲しんでいる時…」妻「当然そうしますよ、だれがしてくれるのよ、子ども達でも孫でもない」夫「まあ、今2人しかいないからね」妻「そうそう」夫「ほかにいないもん【笑】」と語る。また、実際に、7組は受診時一緒に行き（在宅診療含む）、助け合っているため夫婦の特徴と考えることが出来る。

カテゴリー5〈夕べがあり、朝があった〉このカテゴリーは、苦労や病気など様々な困難を経験した後

の‘今’だからこそ、お互いを感じる事が出来る想いについての共通性をまとめている。概念が4つ含まれており1つずつ説明をする。

[l. 親や仕事で苦労かけたから、相手にやさしくしたい] この概念は、親の介護をしてくれたり、転勤に付いてきてくれたりと苦労をかけてきたため、相手の好きなことをさせてあげたい、見守ってあげたい、やさしくしたいと考えていることであり、5例（8組中4組）が語られた。具体例として、A夫妻は、夫「(両親と同居し看取ってくれたことに対して) この人に世話になった、両親が世話になったなあっていう気持ちがあるから、ねえ、何とか、いつもそばにいてやるじゃないけども、だから最初っからね、たぶん若い夫婦でそのまんま、ばあっと生活していたらば、多少は変わったかもしないね」、F夫妻は、夫「(転勤時) 可哀想だなあと、いつも一人ぼっちにしておいて思いながらやっぱり仕事していた、それがやっぱり一番、何か好きなことをさせてあげたい—中省略—そっと、やっぱり見守ってあげたいなあと、そういう風に思ってた」と想いを語る。

[m. 一生懸命社会で働いてくれて家庭を大切にしてくれて感謝] この概念は、定年まで一生懸命社会で働いてくれたこと、また、家庭を大切にしてくれた等、お互いの夫婦役割の中で感謝し合っていることであり、8例（8組中6組）が語られた。具体例として、D夫妻は、夫「結局、昔の国鉄の仕事やってた。H県の冬っていうのはほとんど仕事ないんだわ—中省略—だから内地行ったしよ、だから、KとM育てたってのは、ほとんどこれだ(妻)、だから大変だったと思うよ、私の飲んだお金でもって、飲んだ余りのお金だ、育てたんだから」妻「それでもあんた、修学旅行だとか、どこへでもやったよね」、B夫妻は、妻「(夫が) 勤め上げたってのはありますね」夫「ああ、よくカバーしてくれたな、という感謝の気持ちがありますよね、うちを心配しないで定年まで勤め上げられたっていうのは」妻「ねえ、途中でサボったりしていなかったら、それまでですもんね。それはお互い様でね、定年まで頑張ってくれたなっていうのね、やっぱり」、F夫妻は、夫「お父さん(夫)に付く同僚とか部下とか、こういう人たちを、非常にお母さん(妻)は、大切にしてくれて、その人たちが全部お父さん(夫)に慕うように、どこに行ってもなってくれた。それに対しては非常にやっぱり感謝してる、だから、今あるんでないかなあと思う、今の人生が、そういうに思ってる」と想いを語る。

[n. 病気や出産で辛かったとき、一番思いやり深い愛を感じ合えた] この概念は、病気、怪我、出産など、体が動けなく辛かったとき、お互いが一番、思いやり深い愛を感じ合えたと考えていることであり、7例（8組中7組）が語られた。具体例として、G夫妻は、妻「私ね、一番初めの子、分娩仕官で、あのう出産したんですよ、帝王切開で—後省略—」夫

「そうなんですよ、で、一命を取り留めたんです」妻「やさしくしてもらいました」、A夫妻は、妻「しかし、病気の時は必死にやってくれたよね、自分が病後なのに一中省略一病気してたことなかったからね、お互いを感じ取ったっていうのは、やっぱり病気の時」、E夫妻は、妻「ここ、私の足の骨を折ったときに、毎日病院に来てくれたことがやっぱりそうかな」夫「約3ヶ月近く、毎日だなあ」と想いを語る。[o. 年老いた‘今’の私たちだからこそ、互いに思い合うことができる]この概念は、高齢になり、一緒に老いを感じる‘今’だからこそ、お互いに、より一層、思い合うようになったと捉えていることであり、6例(8組中5組)が語られた。具体例として、G夫妻は、妻「そういう時(体調不良で兄弟の介護が困難時)協力してくれましたからね、やっぱり年取ってからでしょうね、う～ん、夫婦の思いやり…若い時は、お互いつつばつてから、お互いに受け入れ合える、そうね～、特に最近だと思えますね、やっぱり年をとってくと自分の体が思うように動かなくなってきましたからね、そんな時、やっぱり、お互いに必要とするしされる立場に立つでしょ、それが一番じゃないのかしら」、A夫妻は、妻「ここへきてだからね～年取った私たちだから」と想いを語る。

カテゴリー6〈我が結婚に1片の悔いなし〉 このカテゴリーは、結婚生活や伴侶について、また、夫婦関係を‘今’振り返り、1片も後悔していない想いについての共通性をまとめている。概念が4つ含まれており1つずつ説明をする。[p. 2人とも良い性格、上手くいかない筈がない]この概念は、なにより2人共、生まれながらの性格がとても良い、だから夫婦関係は上手く行っていることと捉えていることであり、8例(8組中4組)が語られた。具体例として、H夫妻は、妻「もう、すごい明るいのも私、もう、朗らかグループなの〔笑〕私は明るく、わりと明るい家庭に育ってね、女姉妹2人でね、だから雰囲気も違うんじゃないですか一中省略一私がかどにかく(夫を)尊敬してました、やっぱりこの人(夫)はしっかり物考えられる人なんていう風に思ったんじゃないかしら一後省略一」、G夫妻は、妻「あのう、(夫は)すごく細やかでね女性的な面が」夫「そうなのよお～」妻「そうかと思うとね、荒々しくてね男気が強い、相反するものを」夫「だよ」妻「〔笑〕いつも笑いをそそのの」と想いを語る。[q. 出会いは自然、自分で結婚相手を選んで良かった!]この概念は、自然な出会いで、自分の意思で結婚相手を選んでいる。また、自分の選択は間違っていなかったと確信していることであり、7例(8組中7組)が語られた。具体例として、B夫妻は、夫「(馴初めをお聞きして)同級生」妻「まあ、高校時代のね」夫「どっちがひっかけられたんだか」妻「ひっかかったか、うそうそ〔笑〕お下品じゃない〔笑〕長かった、うん」夫「頑張りま

した〔笑〕」妻「長い長い、ひと昔だね、昔で言うと人生50年じゃあね」、C夫妻は、「(馴初めをお聞きして)なんだ、今で言う合コンか?飲み屋で出会った」妻「あの頃、女の人はいね、あんまり飲み屋なんか、50年前だもん、だって、今、結婚して53年だもん、長い長い一中省略一一時的に燃え上がって、どうとかっていう恋愛じゃないですよ、やっぱり話合ったりなんかしてて」、G夫妻は、夫「(馴初めをお聞きして)出会いはですのお、あんた、音楽ですよ一中省略一この方を目掛けて、私の知ってる交友関係で、7、8人の男性がね、彼女に目を付けてたのね」妻「うそばかり〔笑〕」夫「よお～し、こいつらに負けてられないなあっと思っで、いち早くつばを付けたの。早いもの勝ちだよ、バアッとやったんだ、恋愛なんてもんじゃない大恋愛」と想いを語る。しかし、対極例として1例、D夫妻は紹介で出会っている。[r. 私は素晴らしい伴侶、私たちは上手く行った夫婦]この概念は、自分自身は素晴らしい伴侶と考えており、上手く行った夫婦と捉えている。今後結婚する人たちのために、手本にして欲しいと願っていることであり、7例(8組中4組)が語られた。具体例として、A夫妻は、妻「あなた私をもらって幸せよ」一中省略一妻「(妻が病気になった際)主人は、早速もう、親戚の名簿を持ったりして、病院に駆け回ってくれたんですよ。私はその間、病気に対する不信感っていうのは全然持たなくて済みました」夫「良いご主人だね～〔笑〕素晴らしいね～」B夫妻は、夫「今(妻は)、バス停ぐらいまでしか歩けないじゃない、車買ったのよ。(1122のナンバーキーを見せながら)」妻「そしたら(店員が)番号何番にしますかって言うから考えてたら、いい夫婦(1122)ってどうですかって結構いますよとか言うんで、向こうから言ったんだよね」、G夫妻は、妻「父さん少ししゃべりすぎ」夫「ちょっと、待って、そこであなたが(インタビューが)聞きたいことは、私どものようなハートフルな夫婦の50年に及ぶその歴史?」H夫妻は、夫「いい奥さんだったねえ～」妻「良かったんじゃない、そう意味じゃない?あなた、自分でも思うわ～、よくけなげにやったと思う。一中省略一最高点、そうね、最高よ、私たちね、パパね、みんなね、手本にしてください」と想いを語る。[s. へいへいぼんぼんな生活だったが、今、幸せを感じている]この概念は、大きなドラマチックな出来事はなく、平凡な生活だったが、今、回想してみると、幸せな人生だと感じていることであり、11例(8組中4組)が語られた。具体例として、A夫妻は、夫「まあ、裕福じゃないけども、困らないだけのものがあるから、そういう意味でどうしようっていう悩みもないし、なんか特別なことっていうのが、なんかそういう意味考えると、へいへいぼんぼんなんだよね」一中省略一夫「幸せだよな」妻「身の丈にあったものをね、あればいいの」、H夫妻は、夫「まあ、ごく平凡だよ

な、うちはな、たまたまあ妻「そう言われてみると、ありがたかったんだなあ」—中省略—妻「そんな苦労したことない、家計簿付けないと怒られたこともないし、幸せ、幸せね～、幸せだって、つくづく今、こんなこと考えてる、ああ～私って幸せなんだな～と思う」と想いを語る。しかし、対極例が1例あり、G夫妻は、妻「もうとにかくね、波乱万丈もいいとこです」と語られた。

カテゴリー7〈愛はいつまでも絶えることを知らず〉

このカテゴリーは、現在から未来へ、一貫した相手への変わらぬ想いについてまとめている。概念が3つ含まれており1つずつ説明をする。[t. 相手がいなくなったら自分もない、長生きて欲しい]この概念は、ずっと一緒に生きてきたため、相手がいなくなったら自分もいないと感じている。また、相手がいない人生なんて考えられなくなっている、今後、死によって1人になることを想像するだけでも嫌になる、1日でも長生きして一緒にいたいと思っていることであり、9例（8組中5組）が語られた。具体例として、B夫妻は、妻「たまに自分が寝るときには『ご一緒しません?』とかって〔笑〕『私、まだテレビ見てるの』とか〔笑〕『1人じゃ寂しい』とかって〔笑〕」夫「そういうことなんですよ、基本的には自分が大切なんだけど、相手も大切なんですよ。大切っていうか、相手がいなくなったら自分もないっていうような考え方もあるから、そりゃこの人いなくなったらどうなってたかね、E夫妻は、妻「そうだね、ごく空気のようなもんでね、ここまで来たら—中省略—感謝はしています」—中省略—夫「まあ、空気なかったら死んじゃうもんな〔笑〕」、G夫妻は、夫「お母さんがいなくなったら大変だからなあ～お母さんがいなくなったら、ひとときでも生きて行けないよ、私は、本当だよ」妻「口ばかり、口ばかりよ〔笑〕」、H夫妻は、夫「明日ぼっくりいかなないようにな」妻「わかんない、いくかもよ、困っちゃうね、どっちが先でも、それはしょうがないと思いつながら、その場面は嫌ね、もう想像しても」夫「やだねえ～ママ」—中省略—妻「私なんか年中『あなたがいなくて困るから、ヨロヨロしても生きてて生きてて』って」—中省略—妻「必ず1人はさよなら、一緒に死ぬわけには行かないから、それを思うのが一番辛い、私が死んだらパパどうするだろうって思うし、パパが死んだら私って困るしって思うし、そうでしょ、そうなのよ」と想いを語る。[u. いまさら、何が起っても、絶対に相手を見捨てない]この概念は、50年前後一緒に過ごしてきたのだから、これからの人生、何が起っても、絶対に自分が相手を守ると決心していることであり、6例（8組中4組）が語られた。具体例として、F夫妻は、妻「だって、いろ～んなこと経験してきてるんだから、もう腹の立つことや色々なことをね、47年たら、1年や2年と違うから、ね、若い人

たちが経験したことがないようなのも全部経験してきてるから、いざというときには、投げられません〔笑〕」、B夫妻は、妻「手を差し伸べてくれますか?長い手が短い手かわかんないけど〔笑〕」夫「ほっぽり出したって邪魔だろ」、H夫妻は、妻「出来るか出来ないか無理としても、何でもしようと思うね、パパ、そばにいたら、私、そう思うもの、出来ないかもしれないけど、精一杯やろうとしますよ、もちろん、そばにいるもの、もう、あなたあれじゃない?ねえ務めよね」と想いを語る。[v. この愛は打算的じゃない、心の底から相手を思っている]この概念は、経済的な理由などではなく、人間として心の底から相手を愛している、愛されていると思っていることであり、6例（8組中4組）が語られた。具体例として、H夫妻は、妻「主人に愛されていると思ってますよ、私。そうよ、あなた、愛されなきゃ、こんなに長くいて、そばにいて、こうやってやっていかれない、そうね、主人がいなくて生活費が入らないからなんて人いるのかしらね、まあ、それも困るけど、そんなあれじゃないわ、そんな打算的じゃないね」、F夫妻は、妻「人生の中では、不平不満やなんかもいっぱいあったけれども、こうやって47年間やれたってことは、やっぱりそれなりに、そういうものがあつたからだと思う—中省略—愛があるからだと思う〔笑〕照れくさくて言えませんが〔笑〕心の底には」、G夫妻は、夫「それはね、愛を感じない日はないね—中省略—お母さんが元気で幸せ～って言うときは僕も元気だよ、こういうの相思相愛っていうんでしょ、ああ、そうじゃなかったっけ?」と想いを語る。

総合的考察

愛とは一体何であろう。Lee (1988) は恋愛の形態を、エロス（情熱的な恋愛）、ストロゲー（友愛的な恋愛）、ルーダス（遊戯的な恋愛）、マニア（狂信的な恋愛）プラグマ（実利的な恋愛）アガペー（博愛主義に根ざす利他的な恋愛）と6種類に分類している。筆者は本研究での語りを通して、高齢期の夫婦愛とは、6種類の恋愛とはまた違った形の愛、Fromm (1956) が述べる『愛、それは人間の実存の問題に対する答え』と近く『自分が人間として真剣に生きて証、それが愛』であり、人生の集大成ではないのかと感じた。また、その中で形成される、思いやり深い愛（CL）とは、他者へと向かう究極の愛の形ではないのかと考えられる。

本研究では質問紙の結果として、『夫（妻）への思いやり深い愛尺度』では7件法で、夫の平均値は 5.97 ± 0.73 、妻の平均値は 6.18 ± 0.74 、『夫（妻）からの思いやり深い愛を感じる尺度』では、夫の平均値は 6.21 ± 0.65 、妻の平均値は 6.36 ± 0.73 と高得点となった。先行研究で、ポルトガル大学の Neto (2012) が、

恋愛関係を築いている大学生の男女281人（平均年齢21.89±2.21歳）に、『夫（妻）への思いやり深い愛尺度』を使用した調査の際、平均値は5.27±1.03であった。よって、本研究対象者の方が高い結果となり、思いやり深い愛（CL）を形成している夫婦と考えることが出来る。また、男女とも自分が愛を「与える」よりも、むしろ、相手から愛を「もらっている」と感じているということが結果から示された。しかし、縁故法で夫婦を抽出した際、『夫（妻）への思いやり深い愛尺度』で妻の得点が3点台と低く、研究対象者から除いた夫婦が1組あった。この妻は20年以上勤務しながら、要介護5（寝たきり）の夫を献身的に介護していた。面接時、夫は、「こういう女性に巡り会えたのは、私1人位だと思います、普通だったらとっくに離婚されている、幸せです」と語り、妻は、「夫が寝たきりになったのは夫にも原因がある、私にも原因がある、だからといって放り出せない」、と語られた。夫は妻からの愛を感じ、妻へ愛を与えたいが現実には体が動かない、妻は気持ちとして夫からの愛は感じてはいるものの、実際には自分が一方的に介護しなければならず、肉体的にも精神的にも厳しい、もうこれ以上愛は与えられないと感じている。辛さや喜びを一緒に「分かち合う」ことが難しい状況であった。

また、研究対象者にライフストーリーインタビューで「一番、（夫/妻）へ、思いやり深い愛を与えたと感じるエピソードを教えてください。」等の4つの質問を行ったが、ほとんどの夫婦はあまりピンとこなく、思い浮かばない様子であった。概念生成の結果「傍から見ると‘思いやり’？私たちには‘当たり前’であるように、思いやり深い愛（CL）などとは思ってなく、無意識的な日々の暮らし中での当たりの姿として捉えている様子だった。用意したインタビューガイドより、むしろ、質問紙回答中の会話や2人で紡ぎ出す自然な語りの中で夫婦の特徴を見出せる結果となった。

高齢期に思いやり深い愛（CL）が形成され、夫婦で《‘今’だからこそ抱き合う尊い想い》を感じ合うには、若い時から相手に迷惑を掛けようセルフ・ケアするなど、研究結果で導き出された《手塩にかけて育て続ける関係性》を構築していくことが重要なのだろうと示唆された。

今後の課題

離婚や家庭内暴力、エロスの恋愛感情などの研究は多いが、愛情に満ちた関係性を継続している夫婦の研究は未だ少ない。今後は本研究から抽出された22の概念と、『夫（妻）への思いやり深い愛尺度』を用いて夫婦の関係性特徴を量的な研究によって科学的に実証していくことが望まれる。一方で、本研究の面接では、幼少期を含め、良好な兄弟関係の語りが多いとい

う共通性が見られた。焦点を関係性から個人に移し、夫婦愛を形成できる人の特徴を兄弟関係も含め研究していくことが肝要であると思われる。

超高齢化社会を迎え、人間の一生はより一層長くなっている、彩のある豊かな人生を歩むためにも、今後は、人間は生涯発達し続けるというポジティブな観点からの心理学研究が必要であろうと考えている。

引用文献

- フロム, E. 著 鈴木晶訳 (1991). 愛するということ 紀伊国屋書店
- Fehr, B., Sprecher, S., & Underwood, L.G. (2008). *The Science of Compassionate Love: Theory, Reserch, and Applications*. New York: Wiley-Blackwell.
- Gottman, J. M., & Silver, N. (1999). *The Seven Principles for Making Marriage Work: A Practical Guide from the Country's Foremost Relationship Expert*. New York: Harmony Books.
- Gottman, J. (2011). *The Science of Trust: Emotional Attunement for Couples*. New York: W. W. Norton & Company.
- 稲葉昭英 (1999). 有配偶女性のディストレスの構造 石原邦雄編 妻たちの生活ストレスとサポート 関係一家族・職業・ネットワーク 東京都立大学都市研究所, pp. 87-119.
- 伊藤裕子・池田政子・川浦康至 (1999). 既婚者の疎外感に及ぼす夫婦関係と社会的活動の影響 心理学研究, 70, 17-23.
- Lee, J. A. (1988) Love-styles, In R. J. Sternberg and M. L. Barnes (eds.) , *The psychology of love* (pp. 38-67), New Haven, CT: Yale University Pres.
- 木下康仁 (2003). グラウンデッドセオリーアプローチの実践 弘文堂
- 国立社会保障・人口問題研究所 (2014). 日本の世帯数の将来推計 〈<http://www.ipss.go.jp/pp-pjsetai/j/hpjp2014/yoshi/yoshi.pdf>〉 (2015.1.13)
- 内閣府 (2014). 平成25年度版高齢社会白書 〈http://www.8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w2013/zenbun/25pdf_index.html〉 (2015.1.13)
- 中谷陽明 (2001). 老いと社会 老いの社会学 冷水豊編 制度・臨床への老年学的アプローチ 有斐閣アルマ, pp. 31-43.
- Neto, F. (2012). Compassionate Love for a Romantic Partner, Love Styles and Subjective Well-Being. 〈http://interpersonaabpri.files.wordpress.com/2012/07/02_netto.pdf〉 (2015.1.13)
- Oman, D. (2010). Compassionate love: accomplishments and challenges in an

emerging scientific / spiritual research field.
Mental Health, Religion & Culture, 1-37.
佐久間肇・植田嘉代子・山本玲菜（2009）. 質的研究
のための現象学入門 医学書院, 139-140.
詫摩紀子・八木下暁子・菅原健介・小泉智恵・菅原ま

すみ・北村俊則（1999）. 夫・妻の抑うつ状態に
影響を及ぼす夫婦間の愛情関係について 性格心
理学研究, 7, 100-101.
高橋恵子・波多野宜余夫（1990）. 生涯発達の心理学
岩波新書

—2015. 1.29受稿, 2015. 3. 7 受理—

Appendix 1

『夫（妻）への思いやり深い愛尺度』（夫の平均値：5.97点, 妻の平均値：6.18点）

- 1) わたしは、(夫/妻) が悲しんでいる時、手を差し伸べます。
- 2) わたしは、(夫/妻) の幸せのために、多くの時間を費やします。
- 3) わたしは、(夫/妻) が大変な時にいるのを知ると、すごく心が痛みます。
- 4) わたしにとって、(夫/妻) が経験した痛みや（喜び）を感じることは簡単です。
- 5) もし、(夫/妻) が助けを必要としたら、わたしは助けるために何でもするでしょう。
- 6) わたしは、(夫/妻) に思いやりで満ちた深い愛を感じます。
- 7) わたしは、(夫/妻) が苦しむより、自分が苦しむほうがましだと思っています。
- 8) もし、機会があれば、(夫/妻) が目標を達成できるように、わたしは進んで身をささげます。
- 9) わたしは、(夫/妻) に対して思いやりを感じやすいです。
- 10) わたしの人生にとって、もっとも意味があるのは (夫/妻) を助けることです。
- 11) わたしは、自分自身を助けるより、むしろ (夫/妻) を助けるでしょう。
- 12) わたしは、(夫/妻) が困っている時、よく優しい気持ちになります。
- 13) わたしは、(夫/妻) に対して、無償の思いやりを感じます。
- 14) (夫/妻) が間違っていることをしても、わたしは (夫/妻) のことを受け入れます。
- 15) (夫/妻) が悩んでいたら、わたしは決まって優しさと思いやりをつよく感じます。
- 16) わたしは批判するより、むしろ (夫/妻) を理解しようとしています。
- 17) わたしは、(夫/妻) が困っている時、(夫/妻) の立場になろうとします。
- 18) (夫/妻) が幸せであるのを見ると、わたしも幸せを感じます。
- 19) もし、(夫/妻) がわたしを必要としたら、わたしは当然そばにいます。
- 20) わたしは、(夫/妻) の人生を豊かにする方法がわかるので、(夫/妻) と一緒に時間を過ごしたいです。
- 21) わたしは、(夫/妻) に親切で良くありたいと、とても思っています。

Appendix 2

『夫（妻）からの思いやり深い愛を感じる尺度』（夫の平均値：6.21点, 妻の平均値：6.36点）

- 1) (夫/妻) は、わたしが悲しんでいる時、手を差し伸べてくれます。
- 2) (夫/妻) は、わたしの幸せのために、多くの時間を費やしてくれています。
- 3) (夫/妻) は、わたしが大変な時にいるのを知ると、すごく心が痛むようです。
- 4) (夫/妻) にとって、わたしが経験した痛みや（喜び）を感じることは簡単でしょう。
- 5) もし、わたしが助けを必要としたら、(夫/妻) は助けるために何でもするでしょう。
- 6) (夫/妻) は、わたしに思いやりで満ちた深い愛を感じてくれています。
- 7) (夫/妻) は、わたしが苦しむより自分が苦しむほうがましだと思っています。
- 8) もし、機会があれば、わたしが目標を達成できるように、(夫/妻) は、進んで身をささげしてくれるでしょう。
- 9) (夫/妻) は、わたしに対して、思いやりを感じやすいようです。
- 10) (夫/妻) の人生にとって、もっとも意味があるのは、わたしを助けることだと思います。
- 11) (夫/妻) は、自分自身を助けるより、むしろ、わたしを助けてくれるでしょう。
- 12) (夫/妻) は、わたしが困っている時、よく優しい気持ちで接してくれます。
- 13) (夫/妻) は、わたしに対して、無償の思いやりを与えてくれています。
- 14) わたしが間違っていることをしても、(夫/妻) は、わたしのことを受け入れてくれます。
- 15) わたしが悩んでいたら、(夫/妻) は決まって優しさと思いやりをつよく示してくれます。
- 16) (夫/妻) は批判するより、むしろわたしを理解しようとしてくれます。

- 17) (夫/妻) は、わたしが困っている時、わたしの立場になろうとしてくれます。
- 18) わたしが幸せであるのを見ると、(夫/妻) も幸せを感じてくれます。
- 19) もし、わたしが (夫/妻) を必要としたら、(夫/妻) は当然そばにいてくれると思います。
- 20) (夫/妻) は、わたしの人生を豊かにする方法をわかってくれているので、わたしと一緒に、時間を過ごしたいと思っています。
- 21) (夫/妻) は、わたしに親切で良くありたいと、とても思ってくれています。

Commonalities between Married Couples who have Formed Compassionate Love: Based on the Stories of Elderly Couples Living in Two-Person Households

Shizu WATANABE (*Institute of Psychology, Graduate school of Tokyo Seitoku University*)

Ikuo ISHIMURA (*Department of Applied Psychology, Tokyo Seitoku University*)

In order to propose specific policies to prevent the increase of households with only a single elderly person in Japan, this research has conducted interview surveys (life story interviews) on, and given questionnaires to, 8 elderly couples (16 people). These couples live in two-person households and have formed compassionate love (referred to as CL, hereafter). The questionnaires given to them had "a scale measuring the CL a husband (wife) felt for their spouse" and a "scale measuring the CL the husband (wife) felt from their spouse." After conducting the interviews and questionnaires, the M-GTA revised version was used for analysis and interpretation to derive the characteristics of and commonalities between these couples. This resulted in the creation of 22 concepts, and from there, the creation of 7 categories and 2 core categories. The first core category was [a relationship that continues to be cultivated under the care of the couple]. This core category included 4 categories that were characteristic of the relationship of the couple. They were <2 people being better than one>, <clashing against each other with sincerity>, <feeling like being one in body and soul>, and <working not to cause a heavy burden on the other>. The second core category was [the embrace of precious feelings because "now" is the time]. This core category included 3 categories that were characteristic feelings being embraced "now." They were <there was last night and there was this morning>, <feeling no regret at all about marriage>, and <having a love that forever does not know an end>. These two core categories show when two people are building a [relationship that continues to be cultivated under the care of the couple], they can grow to a place where they [embrace precious feelings because "now" is the time], and the existence of these things colors their relationships. The above results suggest that in order to form CL in old age and to have a couple feel the [embrace of precious feelings because "now" is the time], it is important to take care of one's self for one's partner as well and to create a [relationship that continues to be cultivated under the care of the couple] (as was derived from the research results).

Key words: Compassionate Love, Prevention of the increase of single elderly person households, elderly couples in two person households, life story interviews, M-GTA revised version